

令和2年度 学校自己評価表

学 校 の 運 営 方 針		学 校 の 運 営 計 画 (4月)			評 価 (3月)		
		The Main Creator (社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材)を育成する。 Think Globally (国際的な視野をもって考える)とAct Locally (地域で活躍する実践)を前面に出して教育活動を展開することで、The Main Creatorの基盤となる「体力(健康)」「学力(英知)」「豊かな心(情操)」とそれを将来にわたって貫くための「志(フロンティアスピリット)」を伸ばさせる。					
学 校 の 運 営 方 針		具 体 的 目 標			評 価 (3月)		
昨 年 の 成 果 と 課 題		年 度 重 点 目 標			具 体 的 目 標		
<ul style="list-style-type: none"> 学習面においては担任、学年主任の連携のもと指導を行った結果、出席率は99%を超えることができた。一方で授業態度は一部で主体性に欠けることもあり、ICT環境を生かした授業改善が急務である。 進路に関しては本校キャリア教育充実の柱の一つである体験型学習においては、様々な場所・内容の経験、体験が生徒の進路意識を高める良い機会となった。希望制課外を更に充実させ進学、就職ともに求められる基礎学力の更なる定着を図りたい。 生徒指導面においては各学年において遅刻した生徒への指導を粘り強く行ったが、繰り返し遅刻する生徒を0名とすることはできなかった。また、人間関係が起因となり特別指導となるケースがあり、生徒コミュニケーション能力の向上に課題が残った。また、いじめの認知件数は1件であったが、今後とも早期発見、早期対応を心掛けていきたい。生徒は学校行事等に積極的に取り組んでおり、学校への愛着も高い。生徒会活動、部活動など生徒が主体的に取り組んでいけるよう支援していきたい。 		1 自己指導能力の育成 ・部活動加入率95%以上 ・出席率99%以上			(1) 体験入部の実施と、成績表彰や掲示による部活動を推進する体制をつくり、高体連進校20以内を目指す。 (2) 学年を中心とした指導体制を充実させ、遅刻5回以上の生徒0名を目指す(遅刻常習者の根絶)。 (3) 規範意識の育成を行うことにより、自己指導能力の育成を図り、学校への愛着80%以上を目指す。		
		2 学ぶ意欲の向上 ・体験重視の教育の推進 ・授業改善			(1) 体験重視の教育の推進とICT環境を生かした授業改善により、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す。 (2) 3年生は大学入学共通テスト受験者50名を目標とし、国公立合格者15名以上を目指す。 (3) 学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るため、家庭学習時間1時間以上を目指す。		
		3 地域連携による「北九州愛」の育成 ・幼小中大特の交流事業の推進 ・地域と連携した教育活動の充実			(1) 特別支援学校、幼稚園との交流会を定期的に企画し、生徒の活動体験を支援する。 (2) 近隣小学校と中学校との体育的行事や生徒による部活動指導の交流を通して、生徒の自尊感情の育成を図る。 (3) 地域やPTAとの交流に全職員が年1回以上参加することによる「北九州愛」の醸成。		
		4 生徒理解による良好な人間関係の構築 ・多様性の尊重と理解 ・職員間の緊密な情報共有による生徒理解			(1) 生徒理解との面談期間の設定を年2回以上行うとともに、SCと密接に連携し、生徒理解に努める。 (2) 会議と各委員会で生徒の情報交換の場を必ず設定することで、早期問題解決を図る。 (3) 多様化する生徒の尊重と理解を図るための人権学習と職員研修の充実。		
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			評 価 (3月)		
学習指導	ICTを積極的に活用した授業改善と、基礎学力の定着及び上位層の育成	大型提示装置の設置を受け、活用できる教材の提供を行うとともに、研修課と連携し、授業公開や研修会を通じて積極的に取り組む場を設定する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業の実施により、教育の情報化が進んだ一方、授業時数が削減されたことで授業内容の定着に課題がある。次年度は授業内容及び授業方法(大型提示装置のさらなる活用や、タブレット端末を用いた情報活用能力の育成等)の改善に努め、基礎学力を育成する。 本年度実践が困難であった体験学習やアクティブ・ラーニングを、形態や方策を工夫することで教育課程に組み込み、主体的に学ぶ態度を育成する。 	
	生徒が主体的に学ぶ授業を行い、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて上位層を育成する。		B				
	体験重視の教育の推進	体験学習を教育課程に組み込み、課題解決を意識した学習過程や、学ぶ意欲を持続させるための自己評価について工夫し、主体的に学ぶ態度を育成する。 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行い、主体的、対話的で深い学びを実践する。	B A				
進路指導	キャリア教育を充実させ、志をもって新たな学びに向かう力と未来を生き抜く力を育てる。	各種ガイダンス、インターンシップ等の体験活動を充実させ、進路意識を更に高める。 進路決定を最終目標とさせず、その先をも見据えた指導を徹底し、自らの将来像を考える機会を適宜設定する。 進路内定後の指導を徹底し、卒業まで自觉と緊張感を持った高校生活を過ごさせる。	B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス・インターンシップは各学年と連携を図り早期から内容、目標を検討・設定し、生徒の進路意識を更に高めたい。希望制課外、校外模試はより効果的な講座内容、事後指導の在り方等を検討・実施し、進学・就職ともに求められる学力の更なる充実・定着を図る。進学指導では全職員による小論文指導、面接指導の態勢を確立するとともに、低年次から各種情報を提供し、幅広い選択肢から自己の進路について考えさせたい。就職指導では求人減が予想されるが、望ましい職業観・勤労観を更に高める手立てを考え、また企業訪問等を通じて各事業所との密接な関係を築き、就職率100%を継続させたい。 		
	長期的な視野に立ち、個に応じた指導を深化させるとともに、生徒の学力を伸ばさせ、個々の希望進路を実現する。	低年次から出欠や評定等を意識させ、自己の進路について県外大学等も視野に入れた幅広い選択肢を考えさせる。 放課後希望制課外を更に充実させ、実力養成に努めるとともに、推薦・AO入試を中心とした進学指導を強化する。 受験指導(面接、小論文対策等)を戦略的に実行し、最後まであきらめず、挑戦し続ける指導を行う。	B A A				
	基本的な生活態度の確立に向けて、全職員が共通した認識を持って指導の徹底を図り、規範意識及び自己指導能力の育成に努める。	遅刻・欠席・早退の防止を目指し、登校指導や挨拶運動(計6回)を行うとともに家庭との連携を徹底する。 毎月月初めに、服装・頭髪指導を実施し、身だしなみへの意識を高める。 毎月いじめ対策委員会を開催し情報を共有するとともに、いじめの早期発見、早期対応、体制の整備、充実に努める。	B A A				
生活指導	部活動体験入部をはじめ、様々な活動を行うことで部活動加入率の向上を目指すとともに、部活動に所属している生徒が意欲的にそれぞれの活動を行うことができるように環境の整備に努める。	体験入部等を充実及び新入生への積極的な勧誘を行うことで、部活動加入率95%を目指す。 部活動成績の表彰・活動内容や結果を掲示することで、生徒自身の活動意欲を高める。 校外での諸活動(総合部等)について、大会出場を支援し、高体連の年間表彰では進校20位以内を目指す。	B A A	A	<ul style="list-style-type: none"> 服装頭髪指導に関する教職員間の共通理解を今後さらに深めるとともに、生徒に対しては、校則の意味や意義について講話し、校則(頭髪の基準等)は常日頃から遵守しなければならないことを理解させる。 挨拶については、教職員側から生徒に挨拶することで、しっかり挨拶できる生徒を育成する。また生徒会等による挨拶運動等も企画する。 部活動の加入率が減少傾向にあるため、部活動紹介の見直しや部活動生徒が活動への意欲や意義を強く感じられるような企画を計画することで、入部率90%以上を目指す。 		
	研修	ICTを活用する研修を実施し、授業改善に対する意識を高め、生徒の新たな学びに向かう力を育成する。 公開授業週間や研究授業を行い、教員相互に授業改善について意見交換する機会を設ける。 特別支援学校や幼稚園との交流事業を企画し、体験活動を通して確かな成長を実感させる。	A B B				
	保健・安全	生徒の心身の健康保持増進と学校生活が安全、安心して送れると共に校内の環境美化を推進し、学習環境の整備に努める。滅災力の育成と地域に繋がる防災訓練を行う。 生徒の健康観察に努め、早期発見、早期対応を行う。特に多様なウイルス感染予防対策に努める。 校内美化点検を月に2回実施することで、生徒、職員にも美化意識の育成を図る。 火災、地震だけでなく、緊急時の対応だけでなく、減税に繋がる知識と実践力をつけさせる。	A B B				
庶務	諸行事における早期計画のもと1月前には準備、実行する。各分掌との連携を密にし、校務の運営の円滑化を図る。また、役員会や理事会、その他PTA行事への全職員が積極的に参加を促し、保護者との連携を深めて学校の活性化に努める。	校内の諸行事に際し、定期的に会議を開き、関連する項目の綿密な早期計画を立てる。(各行事1月前には担当教員と業務内容の確認を図る) 教務や学年等、週に1度は他の分掌のチーフと定期的に連絡を取り合う定例会を実施する。 PTA関係の行事を充実させ、参加者が増えるように、役員会や理事会の事前打合せを毎回確実に実施する。	A C A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイル感染拡大防止のため、多くの学校行事やPTA活動が縮小、または中止となり、通常の庶務課の活動を行うことは出来なかった。実施できた活動については、実施計画を立案し、目標通り1月前には庶務課での会議を行い、実施することが出来た。次年度に向けて、今年度実施できなかった行事についても引き継ぎをしっかりと行っていかなければならない。 		
	教育の情報化推進	学校ホームページやICTの活用職員研修を実施し、全職員がホームページの更新を1回以上行う。 点検日に情報機器の保守点検を実施する。また、個人情報流出や情報漏えい等がないように学期に1回以上注意喚起する。 保護者連絡メールの登録者数を保護者全体の90%以上にし、学校からの情報を保護者に伝える。	B B A				
	第1学年	(1)生徒指導の徹底出席率99%、皆勤150名以上。5分前行動と集合時の静寂の維持。 (2)自宅学習時間1時間以上(英語を中心とする)。小論文指導の徹底。 (3)進路指導の推進、校外模試B層以上を50名以上輩出。 学年代表生徒を選出し、生徒による点呼・号令など主体的な行動できるよう指導する。 朝の学習時間や総合的な探求の時間を通じて論理的思考力を涵養していき、適切な量の課題で学力を確立する。 FINESYSTEMを用いてGTZの到達人数の推移を分析し、重点科目を集中的に指導する。	A A B				
第2学年	生徒が自ら考えて行動できるための基本的な生活習慣と学習習慣の確立に向けた授業を最優先として集中して取り組める環境整備を行う。また、個に応じた挑戦を教員が促すことで、挑むことの意義や喜びを生徒自身に体験してもらおう。生徒一人ひとりに自己存在感を与えつつ、他者への共感的理解ができる能力の育成を目指す。	学年全体出席率99%以上の維持、皆勤生徒120名以上の達成、教室移動時の5分前行動と集合時における静寂保持の定着 普段の授業を大切にするために集中して取り組む環境の整備、既習事項復習の徹底を図り、提出物期限完了率80%以上の定着 校外模試における個人成績でB層以上のランクに入る生徒を40名以上輩出輩出できるような環境整備の徹底	B C B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら考えて行動できるための基本的な生活習慣と学習習慣の確立を年度当初に目標として掲げており、学年団教員は十分に努力してくれたが、実績として成果が出なかったことが悔やまれる。次年度に向けて具体的な指導方法を再検討して、最終学年に向けた準備を進めたい。また、生徒の進路目標達成のために、集中して取り組める授業のための環境整備を継続していきたい。 		
	第3学年	進路実現を図り、四年制大学進学者90名以上、うち国公立大学進学者20名以上、センター受験者50名以上を目指す。自学の時間が2時間以上確保されるようにする。出席率99%以上、出席皆勤者150名以上を目指す。	面談や進路ガイダンス等で進路意識を高め、課外等個別の学習指導を計画する。 学習計画を立てさせ、学習習慣の確立に向けて指導・助言を行う。 欠席及び遅刻者については個別に対応し、その減少に努める。			B B A	
		人権教育	気になる生徒に関する定期的な情報交換を行ないながら、全職員が共通認識を持ち、いじめや人間関係トラブルの未然防止、対応に努める。教職員自身の人権意識を磨く為、各種研修会に積極的に参加する。			B B	
		同推委員会を定期的に関き、気になる生徒についての情報交換を行い退学・留年・不登校の防止につなげる。 人権同和教育及びインクルーシブ教育に関する研修会に必ず参加することにより教職員の人権意識を向上を図る。			B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から各種情報交換会や研修会が軒並み中止となった。生徒情報交換については定期的実施し、必要に応じて義務制や地域との連携を行なった。